

平成26年度 一志病院長マネジメントシート(最終実績)

病院名	一志病院									
ビジョン	家庭医を中心とした地域医療、地域医療を担う人材の教育、医療や教育に関する研究に取り組むことにより、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになることをめざします。									
経営方針	家庭医療を中心とした医療を実践します。 家庭医が推進者となり、地域に最適な包括的で全人的な医療体制を住民の皆さんとともに創ります。 研修医や医学生等に対する実地教育を通じて、地域医療の魅力や意義を伝えます。 家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的かつ先進的な研究を行います。 医療サービスを継続的に提供できるよう、経営の健全化に努めます。									
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H25 実績値	H26 目標値	H26 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
顧客の 視点		全人的な医療サービスの提供	かかりつけ患者の増加	家庭医療等外来受診者数(予防医療含む)	105.4人/日	109.0人/日	104.7人/日	・家庭医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。 ・メッセージャー配置やカルテ運用方法の見直しなどの業務効率化に着手する。	・予防医療を除く内科患者数が減少したものの、予防医療受診者が増加した結果、全体では前年度を若干下回ることとなった。	・地域住民の幅広いニーズに対応できる医療を推進していく必要がある。
		顧客満足度の高い医療の実践	入院患者の増加	一般病棟入院患者数【病床稼働率】	35.7人【77.6%】	34.0人【73.9%】	33.7人【73.3%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。	・入院患者数の少ない時期(H26年6月、9～11月)があったため、前年度に比べ1日平均の入院患者数が減少した。	・地域住民の幅広いニーズに対応できる医療を推進していく必要がある。 ・関係機関との連携強化に努める必要がある。
		顧客満足度の高い医療の実践	患者及び家族の満足度向上	患者アンケート「親しい友人や家族が病気になる時、当院を推薦するか」項目の推薦率 患者アンケート「今後も当院を受診しようと思うか」項目の受診率	81.2% 94.9%	84.0% 96.0%	75.0% 94.4%	・患者様アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接客能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・アンケートの回答項目のうち、「わからない」を選択した患者の割合が増えた結果、前年度に比べ患者満足度の数値が下がった。	・職員の接客能力向上や、療養環境の整備、待ち時間の短縮等に取り組んでいく必要がある。
財務の 視点		経営の健全化	収入の改善	経常収支比率	102.8%	100.0%	102.5%	・入院、外来患者数の増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。	・新たに施設基準を取得した。(在宅療養支援病院、在宅時医学総合管理料など) ・H25年8月から原則院外処方とし、H26年度は年度を通して実施できたため、外来収益及び薬品費が減少した。 ・予防医療受診者増、入院単価増などにより、経常収支は黒字となった。	・入院、外来患者、予防医療受診者の増加や診療報酬等の単価増に取り組むとともに、費用等の節減に努め、医療収支の改善、経常収支の継続的な黒字化に取り組んでいく必要がある。
		経営の健全化	収益の確保	診療報酬検討会開催回数	12回	12回	12回	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。		
		経営の健全化	費用の縮減	材料費、経費対医療収益比率	48.2%	50.4%	46.8%			
内部プロセスの 視点		地域に最適な医療体制の構築	関係機関・地域住民との連携強化	地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)	11機関(者)	13機関(者)	14機関(者)	・地域医療に関する協議会等へ参加し、連携を図る。 ・医師等が地域の病院等関係機関を訪問し、連携を図る。	・シンポジウムの開催や消防団との合同防災訓練等を通じて、住民参加型の多職種連携を図った。	・保健、医療、福祉等の関係機関はもとより、地域住民との連携を進め、拡大していく必要がある。
		家庭医を中心とした地域医療	在宅療養の充実	訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション等延べ患者数	3,219人	3,240人	3,424人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導の単価増・件数増等を図る。	・従来から実施している訪問診療等の在宅療養支援に加え、H26年12月から訪問栄養指導を開始した。	・地域住民のニーズに対応できるよう、在宅療養支援の実施体制を維持していく必要がある。
		家庭医を中心とした地域医療	救急医療体制の確立	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)	1,065人	1,000人	1,182人	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・引き続き救急隊等、消防機関との連携強化に努める。	・24時間365日体制を維持した。 ・合同勉強会等を通じて消防機関との連携強化を図った。	・24時間365日体制維持に伴う医療従事者の負担軽減等について検討していく必要がある。
		家庭医を中心とした地域医療	予防医療の実践	住民健診・がん検診受検者数	1,196人	1,180人	1,300人	・住民健診、がん検診等をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・住民健診受診者が前年度に比べ大幅に増加した。	・予防医療の必要性を地域住民に周知していく必要がある。 ・住民健診等に対応できる診療体制を維持していく必要がある。
		地域医療を担う人材の教育	研修医・医学生の受入れ体制の充実	初期研修医・医学生受入実人数	48人	49人	44人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・初期研修医11人、医学生33人を受け入れた。	・当院での研修を希望する研修医を積極的に受け入れられる体制を維持していく必要がある。
学習と成長の 視点		専門能力の向上	医療従事者の能力向上	学会、研修、カンファレンス等の参加率	100%	100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会、研修、カンファレンスに一度は参加した。	・学会、研修、カンファレンス等に参加しやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。
		実践的かつ先進的な研究の実施	家庭医療等に関する研究の実施	学会発表・論文発表件数	20件	14件	28件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・学会等での発表を17件、医学雑誌等での論文発表を11件行った。	・研究に取り組みやすい職場環境づくり、研究意欲の醸成に努める必要がある。
		風とおしの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	-	68.0%	65.6%	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。	・プロジェクトにおいてイベントを企画・実施するなど、職員のモチベーション向上につながる取組を行った。	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進に努める必要がある。 ・職員のモチベーション維持・向上に努める必要がある。